

# 独立系V.C.、新規投資抑制

## 企業選別進み育成に重点

独立系ベンチャーキャピタル(V.C.)が新規投資を抑制し、投資先企業の育成を重視していった。新興市場に株式を上場したベンチャー企業に対して、機関投資家などが連判の目をつけており、経営危機が倒い企業に株式公開が難しくなっている。独立系V.C.の資金提供はほとんどが投資先企業の経営にも影響を及ぼさず、投資先への再投資や経営支援が強化されている。

日本テクノロジーズベンチャーパートナーズ(東京・文京、村口和孝代表)は過去三年間、新たなベンチャー企業を中心に投資してきたが、今後は大企業を重点に投資した企業への再投資に切り替える。投資先の手当を十分に再投資資金に振り回す。今後は新たな投資先を

発掘より、既存の投資先企業の育成に力を入れる。機関先紹介や販売支援などを通じて事業拡大を後押しする。

キャピタルエントロム(東京・千代田、守田和盛社長)は今年の投資社数を昨年実績の約半分の十社程度に減らす。同社は原則として、出資先に対してコンサルティングを実施しており、現在の人員で十分な経営指導ができる範囲内に新規投資社数を抑える。一部の独立系V.C.が企業への投資に慎重になっているのは、投資先に創業期の

企業が多へ、ベンチャー経営者から事業転換や販売で独立系V.C.は引き続きベンチャー企業への新規投資で積極的になり始めている。